

令和8年度 岩手県立山田高等学校経営計画

校長：大村 東道

1	校訓・教育目標	校訓:身体を鍛え、勉学に勤しみ、真理を究め、叡智を磨き、豊かな心を養え 教育目標:知・徳・体の調和を図り、誠実、自主、創造の気概に満ちた生徒の育成を目指す	
2	(1) 育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を思いやり、自他の生命や権利を大切にす豊かな心を育成します。 ・学びの修得に向かってこつこつとした努力を惜しまない心を育成します。 ・自ら考え、表現し、適切な判断に基づいて主体的に行動できる力を育成します。 ・特別活動や他校との交流活動等を通じて多様性に触れ、他者と協働できる力を育成します。 ・地域社会の一員として課題解決に貢献できる実践力を育成します。 	
	(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模を強みとして一人ひとりの夢や進路希望により添う個別対応の学びを進めます。 ・基礎学力の向上と定着を図るため、学び直しの充実を図ります。 ・地域との連携を生かした「ふるさと探究」に取り組みます。 ・「ほんもの」に出会い「ほんもの」を体感できるキャリア教育を推進します。 ・自らの在り方について考えるため、県内外の他校生との交流活動等の機会を提供します。 	
	(3) 入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が第一志望、スクール・ポリシーに共感できる生徒 ・挨拶ができ思いやりの心を持って行動できる生徒 ・中学校での学習活動や特別活動等にしっかり取り組んでいる生徒 ・入学後、自分の進路や目標に向けて、日々努力できる生徒 ・故郷や社会に貢献しようとする意欲を持った生徒 	
3	魅力化協働パートナー	山高を支える会、PTA、同窓会 山田町、山田町商工会、山田町社会福祉協議会、山田町体育協会	
4	(1) 今年度の重点目標	重点目標	達成指標
		ア 学校と地域が連携し、総合探究「ふるさと探究」の充実を図る	・学校評価(生徒)において、「地域と連携」と答えた生徒の割合【80%以上】
		イ 保護者や地域とともに魅力ある学校づくりを推進する	・学校評価(保護者)において、「子どもを入学させてよかった」と答えた保護者の割合【80%以上】
		ウ 授業の充実により、生徒の確かな学力を育成する	・学校評価(生徒)において、「授業がわかる」と答えた生徒の割合【75%以上】
		エ キャリア教育を推進し、生徒の希望進路の実現を図る	・学校評価(生徒)において、「進路指導が充実」と答えた生徒の割合【75%以上】
		オ 学校いじめ対策組織を中核として、いじめの未然防止・適切な対処に当たる	・学校評価(生徒)において、「学校生活が充実」と答えた生徒の割合【75%以上】
		カ 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築する	・学校評価(生徒)において、「安心して学校生活を送ることができている」と答えた生徒の割合【75%以上】
	(2) 取組方針	ア 学校と地域が連携し、総合探究「ふるさと探究」の充実を図るための取組 (ア) 地域連携コーディネーターを活用し、地域連携を深め総合探究の充実を図る (イ) 各種ボランティア活動への参加により、地域貢献を図っていく	
		イ 保護者や地域とともに魅力ある学校づくりを推進するための取組 (ア) 魅力化協働パートナーと学校運営協議会等で連携を深めていく (イ) 町内小中学校と互見授業や生徒・職員交流等により連携していく	
		ウ 授業の充実により、生徒の確かな学力を育成するための取組 (ア) 遠隔授業を含めICTの積極的活用により、新しい授業づくりを推進する (イ) 学び直しの取り組みとともに、対話的で主体的な深い学びの実現を図る	
エ キャリア教育を推進し、生徒の希望進路の実現を図るための取組 (ア) 事業所見学会(復興担い手育成事業)、インターンシップで進路学習を深める (イ) 面談等で生徒理解に努め、個別指導等により多様な進路希望に対応する			

(様式1)【高等学校用】

		<p>オ 学校いじめ対策組織を中核として、いじめの未然防止・適切な対処に当たるための取組</p> <p>(ア) 学校行事や他校交流(交流学习スクール)等を通じて、豊かな心の育成を図る</p> <p>(イ) 保健指導や教育相談体制の充実により、いじめの未然防止・早期発見を図る</p> <p>カ 生徒を個人として尊重し、不適切な指導を根絶する体制を組織として構築するための取組</p> <p>(ア) 校長を中心として、全職員での研修を実施し、共通認識を図る</p> <p>(イ) 日常での生徒の様子観察や情報共有を密に行う</p>
5	業務量管理・健康確保措置	<ul style="list-style-type: none">・時間外在校等時間が月 60 時間以上の者をゼロにすることを旨とする・ストレスチェックの結果を活用し、職場環境の改善や健康確保措置の充実に生かす。